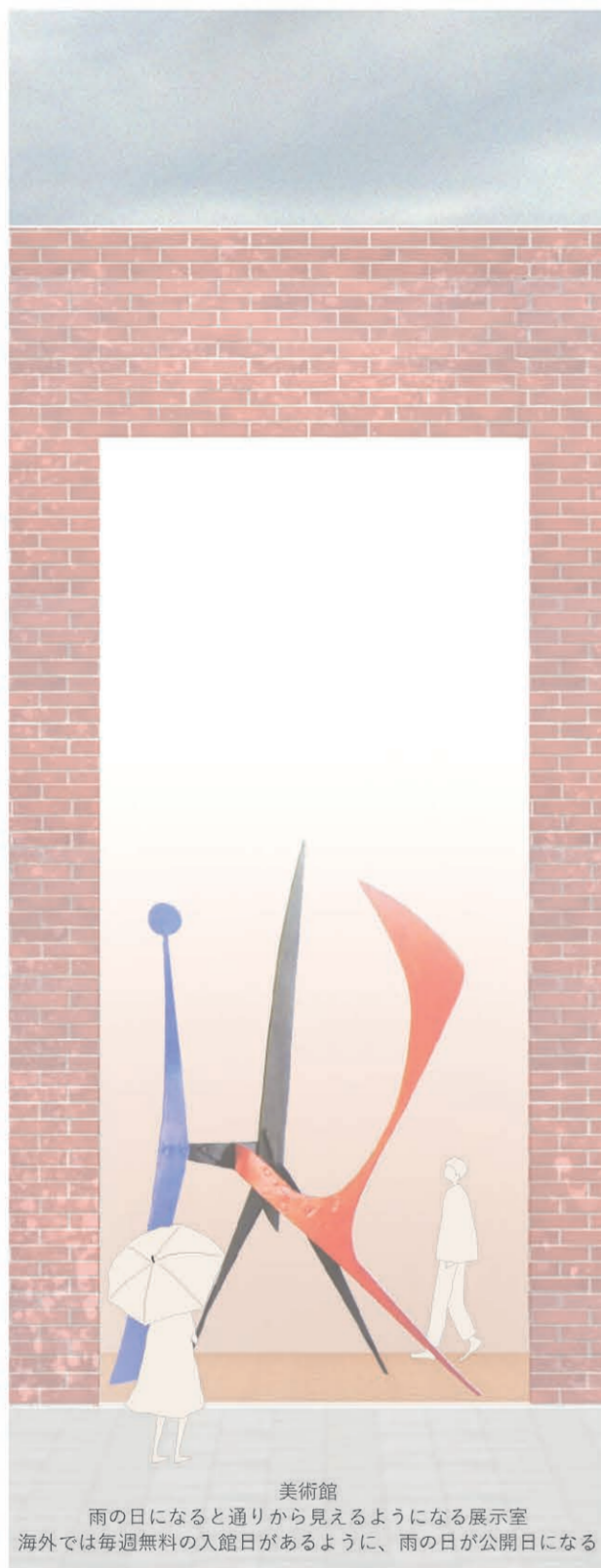


濡れると透明になるガラス もしくは石のようなガラス

雨が降ると街の風景はいつもより濃い色になる。  
 石やアスファルト、木や布が濡れると表情を変えるように、「乾くと白く濡るように曇り、濡れると透明になるガラス」というものがあったら、どんな風景や空間が生まれるかについて考えた。  
 世界的に見ても四季や天候の変化に富む日本だから生まれたガラスというのがあると思う。天候に呼応するガラスの提案である。  
 都市の中で、濡れると透明度が変わるガラスが使われる風景を考えると沢山の風景や空間が思いつく。  
 住宅から公共、店舗にいたるまで。それらはどこか隠れ家的で、インターネットの情報網でも拾い上げることのできない、ひと時だけの居場所をつくりだす。

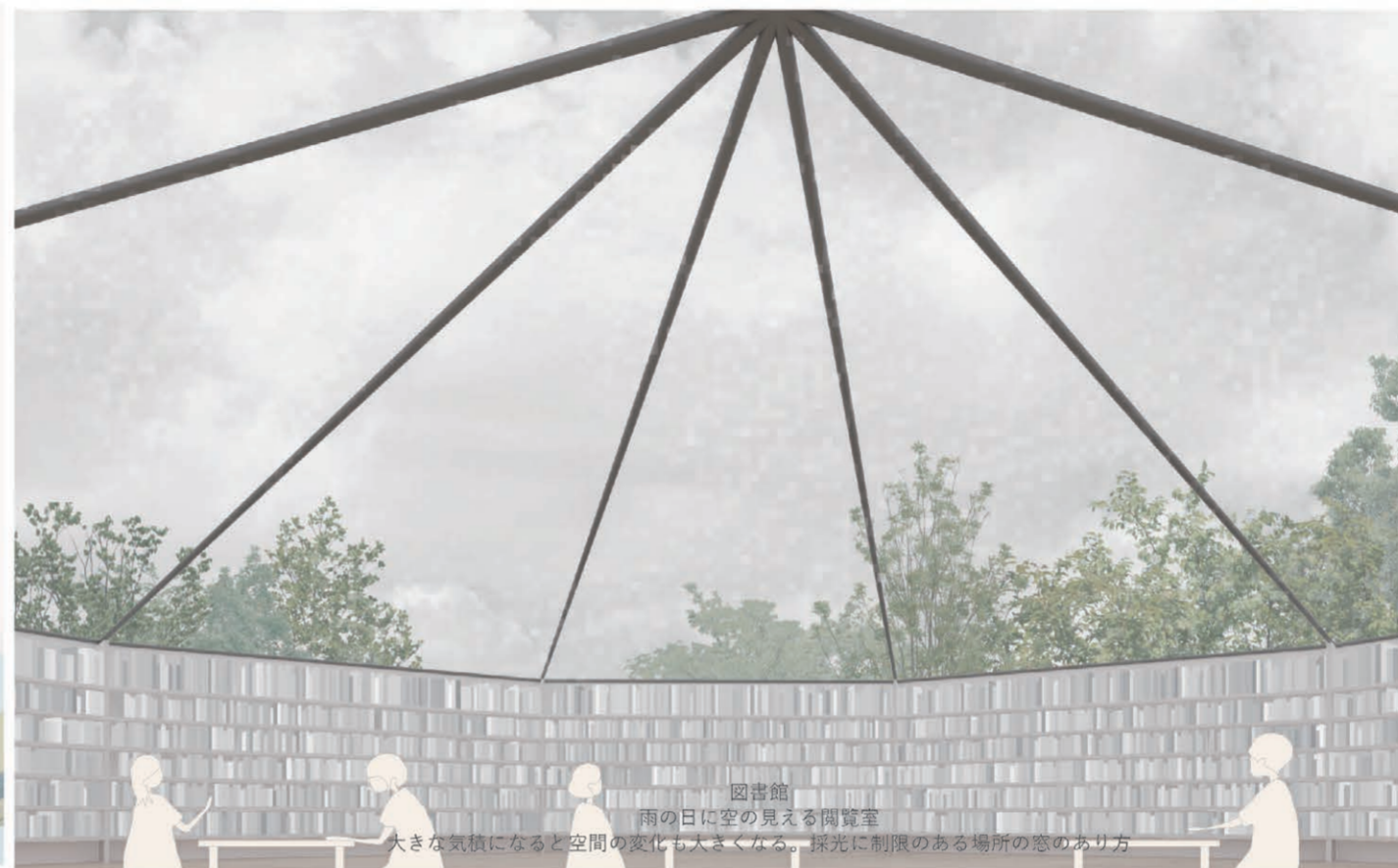
情報化社会の時代に私たちが過ごしたい場所とは、皆が知っている居心地のいい場所も良いが、自分しか知らない居心地のいい場所を、天候の変化に合わせてるように選択しながら過ごせることではないだろうか。  
 ガラスが透明な石として野性を少し持った時、街もまた少し野性味のあるものになるだろう。



美術館  
 雨の日になると通りから見えるようになる展示室  
 海外では毎週無料の入館日があるように、雨の日が公開日になる



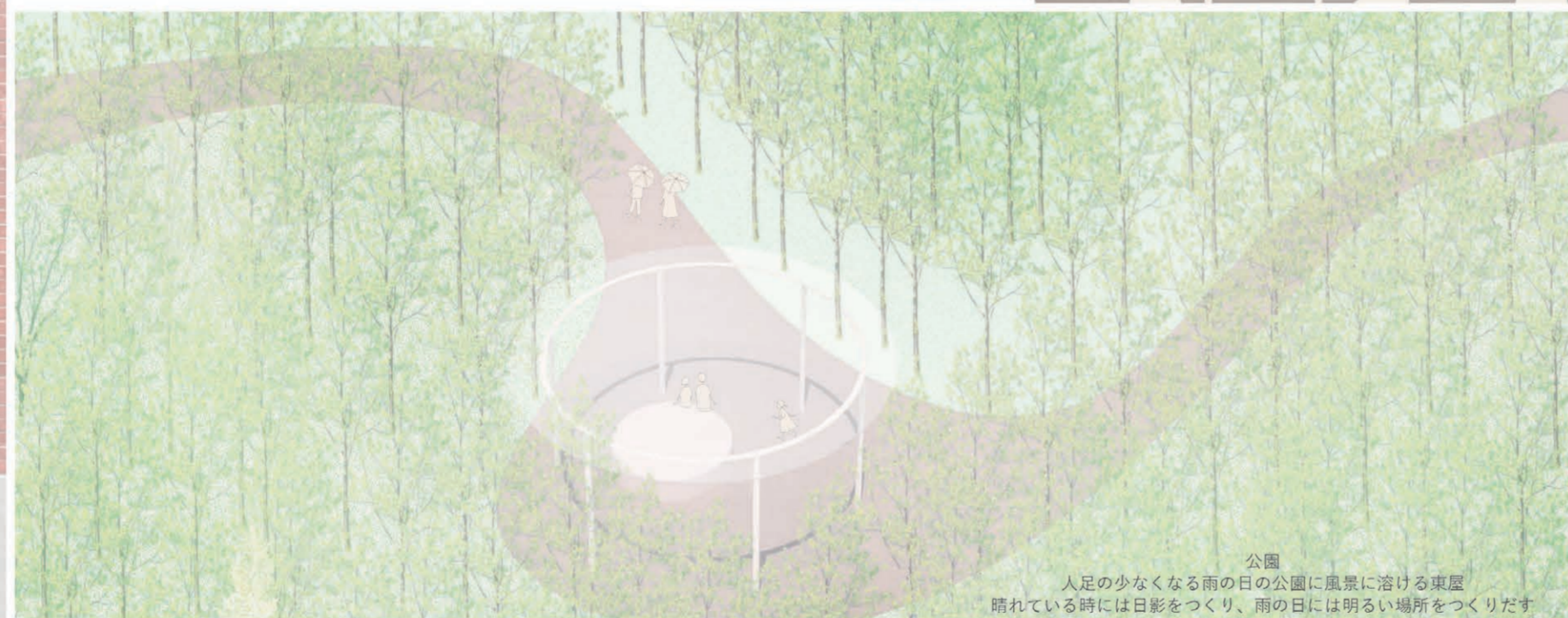
駅前広場  
 水たまりがあちこちに見えるくらい大きな平たい屋根  
 晴れている時、雨が降った時、雨が止んだ時で広場の風景が刻々と移り変わる街のエントランス



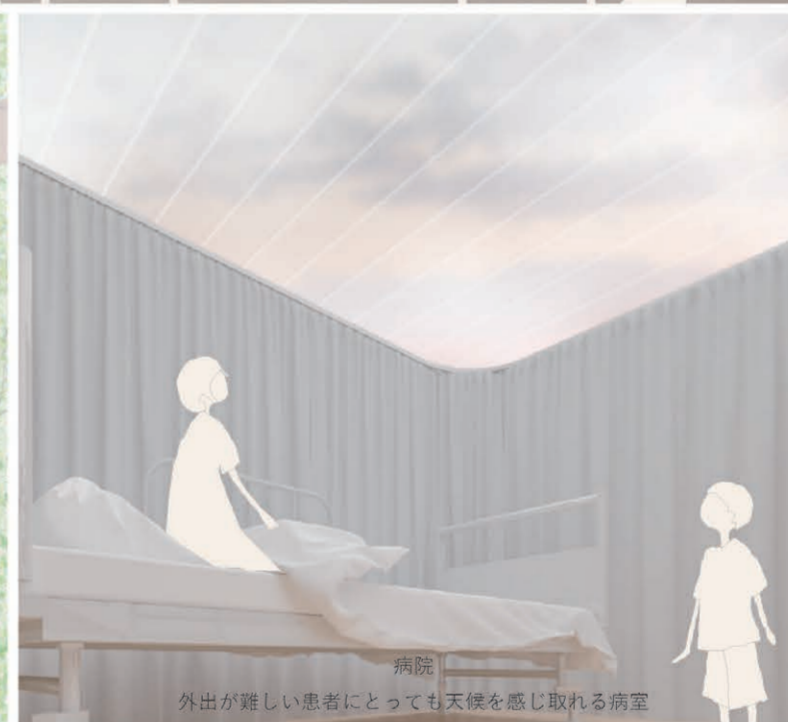
図書館  
 雨の日に空の見える閲覧室  
 大きな気積になると空間の変化も大きくなる。採光に制限のある場所の窓のあり方



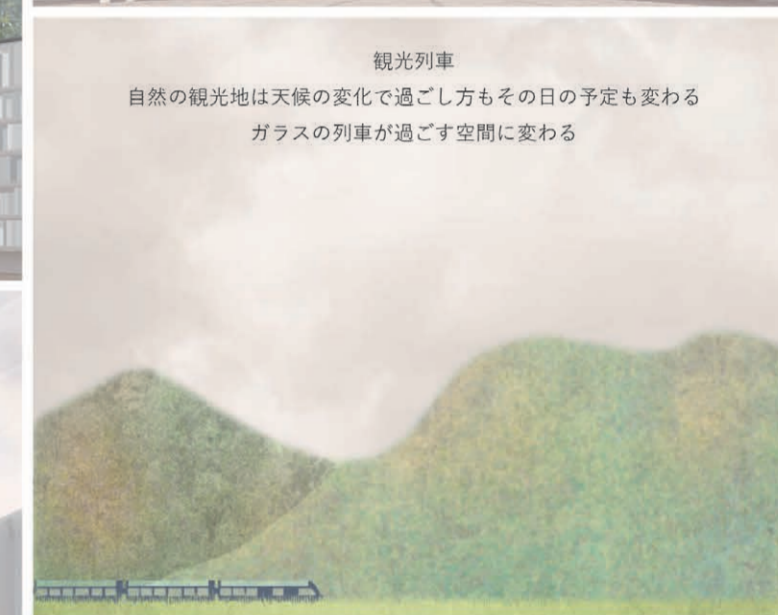
ショッピングモール  
 常に移り変わり、常にイベントを求めるモール  
 天候の変化による空間の変化もイベントとして汲み取る空間



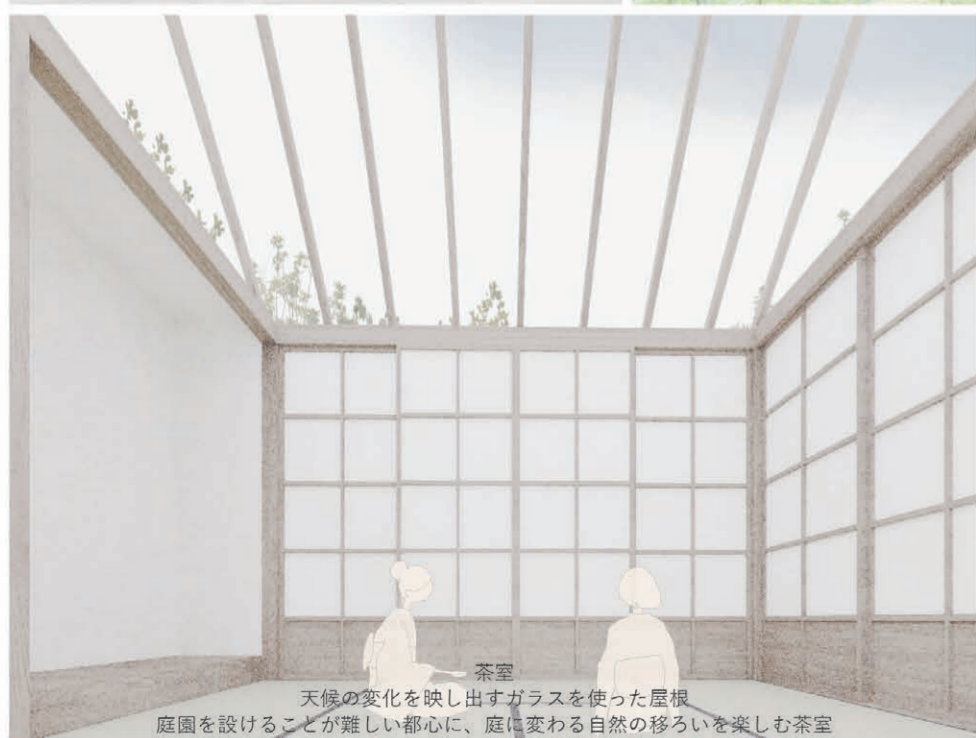
公園  
 人足の少なくなる雨の日の公園に風景に溶ける東屋  
 晴れている時には日影をつくり、雨の日には明るい場所をつくりだす



病院  
 外出が難しい患者にとって天候を感じ取れる病室



観光列車  
 自然の観光地は天候の変化で過ごし方もその日の予定も変わる  
 ガラスの列車が過ごす空間が変わる



茶室  
 天候の変化を映し出すガラスを使った屋根  
 庭園を設けることが難しい都心に、庭に変わる自然の移ろいを楽しむ茶室



塔屋  
 四方を街の風景が囲む塔屋  
 建物が建込み窓の開けづらい場所に別荘のようにたまに行く庭をつくる



住宅  
 草木に水をやるように家にも水をやり、窓を気の向いた場所に開けられる住宅  
 自分らしく暮らすことへの意識が高まる今日 過ごす時間をより豊かにする住宅



オフィスビルのカーテンウォール  
 天候に任せた透光の仕方。普段は拡散光が満たし、雨の日には直接光が射す  
 均質光が好まれる執務空間に少しの視覚的变化を天候がつくる